

『盲導犬情報』 第2号 ～NPO 法人全国盲導犬施設連合会 情報誌～

発行責任者 佐々木 紀夫

編集責任者 篠田 林歌

編集 NPO 法人全国盲導犬施設連合会盲導犬情報室

〒621-0027 京都府亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷 18-2 (財) 関西盲導犬協会内

電話：0771(24)0323 FAX:0771(25)1054

発行 NPO 法人全国盲導犬施設連合会

【会員団体】

(財)北海道盲導犬協会 (財)栃木盲導犬センター (財)日本盲導犬協会

(財)中部盲導犬協会 (財)関西盲導犬協会 (社福)日本ライトハウス

(社福)兵庫盲導犬協会 (財)九州盲導犬協会

〒160-0007 東京都新宿区荒木町 18-7 四谷長岡ビル 202 号室

電話:03(5367)9770 FAX:03(5367)9771

<http://www.gd-rengokai.jp/> E-mail : gd_rengokai@peach.ocn.ne.jp

☆『盲導犬情報』製作費の一部を伊藤忠食品株式会社の助成により作成いたしました。

2009 年 発行

内容

日本の盲導犬育成団体が提供するサービスに関するアンケート調査の結果報告

盲導犬訓練士・歩行指導員資格認定制度について

盲導犬ユーザーのコーナー

出会いと別れについて……………山形県 今野 善一

盲導犬情報ボックス

2008 年に出版された盲導犬に関する文献

NPO 法人全国盲導犬施設連合会からのお知らせ

(1)NPO 法人設立報告会の報告

(2)相談窓口連絡先を記載したリーフレット「ぼくも一緒 みんなも一緒」を作りました

(3)2009 年度のポスターと『デュエット』

編集後記

日本の盲導犬育成団体が提供するサービスに関するアンケート調査の結果報告

「盲導犬情報」では、第 47～53,54 合併号にわたって、アメリカの盲導犬使用者

の会(Guide Dog Users, Inc.)による「盲導犬学校に対する調査結果報告」を掲載してきました。これは、アメリカの盲導犬ユーザーの会が、盲導犬育成団体に対して行った調査結果を公表したものです。質問の内容は、申し込んでからの待機期間やどのようなサービスを提供するのか、施設の設備はどの程度整えられているのかといったことなど、多岐にわたっています。

同様の調査が日本の育成施設に対して行われたことは、これまでありませんでした。そこで、今回、アメリカで行われた調査項目にならってアンケートを作成し、日本の9つの盲導犬育成団体にご協力をお願いしました。回答いただいた8団体の結果をまとめましたのでご報告いたします。

なお、文中では、各団体の名称を以下のように省略しました。

北海道盲導犬協会：北海道

栃木盲導犬センター：栃木

日本盲導犬協会：日本

中部盲導犬協会：中部

関西盲導犬協会：関西

日本ライトハウス：ライト

兵庫盲導犬協会：兵庫

九州盲導犬協会：九州

1. 共同訓練について

1-1. 実施状況

(1) 年間の共同訓練修了者数 (2006～2008 年度の平均)

北海道：14人

栃木：9.7人

日本：39.3人

中部：8人

関西：12.3人

ライト：23.7人

兵庫：3.3人

九州：8人

合計：118.3人

(2) 年間の共同訓練実施回数 (2006～2008 年度の平均)

北海道：14回

栃木：10回

日本：30回

中部：8回
関西：12回
ライト：11回
兵庫：3.5回
九州：8回
平均：12回

1-2. 実施形態

(1) 実施する共同訓練のスタイル

施設入所型の訓練：ライト

施設入所と在宅訓練の組み合わせ：北海道、栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

(2) 共同訓練の際、指導員1人が受け持つ訓練生の数

訓練生1人：北海道、栃木、兵庫、九州

訓練生1～2人：中部、関西

訓練生2人：日本、ライト

1-3. 実施期間

(1) 新規の盲導犬使用者に対して行われる共同訓練の期間

北海道：28日間のうち休み4日間

栃木：28日間のうち休み8日間

日本：27日間のうち休み6日間

中部：28日間のうち休み3日間

関西：28日間のうち休み4.5日間

ライト：28日間のうち休み4日間

兵庫：30日間のうち休み6日間

九州：28日間のうち休み約6日間

(2) 代替の盲導犬ユーザーに対して行われる共同訓練の期間

北海道：14日間のうち休み2日間

栃木：14日間のうち休み4日間

日本：14日間のうち休み2日間

中部：14日間のうち休み1日間

関西：14日間のうち休み2日間

ライト：14日間のうち休み2日間

兵庫：(未だ代替がないため無回答)

九州：14日間のうち休み約3日間

(3) 他の盲導犬育成団体のユーザーが代替えのために受ける共同訓練の期間

北海道：14日間のうち休み2日間（自団体の代替えと同じ）

栃木：14日間のうち休み4日間（自団体の代替えと同じ）

日本：14～21日間のうち休み2～4日間

中部：28日間のうち休み3日間

関西：14+ α 日間のうち休み2+ α 日間

ライト：21日間のうち休み3日間

兵庫：30日間のうち休み6日間（新規と同じ）

九州：2～3週間のうち休み3～4日間

1-4. 費用の負担

(1) 共同訓練中に必要となる交通費

育成団体が負担：北海道、栃木、日本、中部、九州

訓練生が自己負担：関西、ライト、兵庫

1-5. 施設の設備

(1) 特別な食事療法を必要とする場合の献立の配慮

食事は提供するが、特別食には対応できない：ライト

医療用の献立を用意する：北海道、栃木、関西、中部、兵庫

菜食主義者または宗教上の配慮が必要な献立を用意する：北海道、栃木

その他

配慮はする：日本

特別食が必要な方の受け入れは今までない：九州

(2) 訓練生のための設備

トイレ／洗面設備を備えた個室：北海道、栃木、日本、中部、関西（トイレはない）、九州

トイレ／洗面設備を備えていない個室：ライト、兵庫

接続機能を備えたパソコン：中部

インターネットの接続：北海道、日本、中部、関西、兵庫（本人の希望に応じて）

洗濯設備：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

公共スペースでの電子レンジ・コーヒーメーカーの設置：

北海道、栃木、日本、中部（コーヒーメーカーはない）、関西、ライト、兵庫

禁煙の公共スペース：栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

喫煙場所：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

楽器：なし

利用可能な形態での資料図書室：北海道、中部、関西

テレビ・ステレオ：北海道、栃木、日本、中部、関西（ステレオはなし）、ライト、兵庫、九州

運動機器：北海道、日本、中部

その他

カラオケ：中部

2. 申し込みについて

2-1. 申し込んでから訓練を開始するまでの平均待機期間

(1) 新規の盲導犬希望者の場合

北海道：2年

栃木：6ヶ月～1年

日本：1～3年

中部：約1年

関西：1～2年

兵庫：1～2年

九州：1年4ヶ月

ライトは無回答

(2) 代替の盲導犬希望者の場合

北海道：1年

栃木：平均1年

（盲導犬が9才になる時に手続きを進め、盲導犬が10才になる時点で代替の訓練ができるよう、それまでに手続きが完了するようにしている）

日本：半年

中部：半年～1年半

関西：老齢による予定された代替であれば待機期間は無し、予期しない代替の場合1年

兵庫：代替実績無し

九州：7.2ヶ月

ライトは無回答

2-2. 申し込み条件

(1) 対象と考える申込者の条件

視覚障害1級：ライト

視覚障害1級もしくは2級：北海道、栃木、中部、関西、兵庫

視覚障害(1～3級)：九州

視覚障害の等級は問わない：日本

全盲で聴覚障害がある方：北海道
弱視で聴覚障害がある方：北海道
視覚障害で歩行時に体を支えるための杖を携える方：北海道
視覚障害で車いすを使用する方：なし
視覚障害で療育手帳所持者：北海道

(2) 年齢制限

ない：栃木

18歳以上：北海道、中部、関西、ライト、兵庫、九州

おおむね18歳以上：日本

18歳以上60才までだが、状況に応じて対応する：中部

(3) 共同訓練前の白杖歩行技術の習得

必要とする：なし

修了が望ましい：栃木、日本、中部、関西、兵庫

修了は必要としない：北海道、ライト、九州

(4) 共同訓練を受けるにあたって必要と考える条件（自由記述）

日本：盲導犬と生活することを理解していること

九州：同居人、家主の同意

2-3. 申し込みに必要な事項

(1) 面接の実施

家庭訪問による面接：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

来所による面接：栃木、日本、ライト、兵庫

(2) 書類の提出

申込者に対する質問書の提出：北海道、日本、中部、関西

申込者のための推薦状の提出（保証人の署名）：中部

医師の診断書の提出：北海道、栃木、日本、中部、兵庫

3. 訓練指導員の資格と任務

(1) 盲導犬歩行指導員資格取得に必要な事柄

5年間の施設内研修プログラムを修了すること：栃木、関西

3年間の施設内研修プログラムを修了すること：ライト

2年間の施設内研修プログラムを修了すること：中部

全国盲導犬施設連合会が行う認定試験に合格すること：

北海道、栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

(2) 盲導犬訓練士資格取得に必要な事柄

3年間の施設内研修プログラムを修了すること：日本（訓練士学校）中部、関西

2年間の施設内研修プログラムを修了すること：栃木、ライト

全国盲導犬施設連合会が行う認定試験に合格すること：

北海道、栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

4. 繁殖と選択

4-1. 訓練犬について

(1) 犬種別のおおよその割合

ラブラドル・レトリバー

100%：北海道、兵庫

90～99%：中部、九州

80～89%：栃木

70～79%：日本、関西、ライト

ゴールデン・レトリバー

10%以下：日本、栃木

5%以下：関西、九州

ジャーマン・シェパード

1%以下：日本

その他

ラブラドルとゴールデンの雑種(F1,F2)：栃木、日本、関西、ライト、九州

カーリーコートドレトリバー・スタンダードプードル：中部

(2) 入手方法

自家繁殖：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

繁殖家からの購入：日本、中部、兵庫

寄付：北海道、栃木、兵庫

他の盲導犬育成団体からの寄付・交換：北海道、栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

他の補助犬育成団体からの寄付・交換：栃木

4-2. 職員の配置

(1) 獣医師の職員の有無

いる：北海道、日本、ライト

いない：栃木、中部、関西、兵庫、九州

(2) 繁殖を専門に担当する職員の有無

いる：北海道、栃木、日本、関西、兵庫

いない：中部、ライト、九州

5. 子犬の社会化／評価

5-1. パピーウォーカーについて

(1) パピーウォーカーへの対応

パピーウォーカーに対して、職員が飼育方法の指導等を行う：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

パピーウォーカーに対して、育成団体が定めたガイドラインがある：

北海道、栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

パピーウォーカーは、育成団体が主催する研修会に出席しなければならない：

北海道、栃木、日本、中部、九州

育成団体の職員は、子犬の育成状況について定期的にチェックする：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

パピーウォーカーには、子犬に基本的な服従を教える責任がある：中部

パピーウォーカーは、家の中で正しい行動を子犬に身につけさせる責任がある：

北海道、栃木、日本、中部、ライト、兵庫、九州

(2) パピーウォーキング・プログラム

パピーウォーキングスーパーバイザーがいる：関西、ライト

一般家庭でパピーウォーキングを行う：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

学校・施設等でパピーウォーキングを行う：なし

(3) ユーザーとの関係

パピーウォーカーと盲導犬ユーザーの交流を積極的に勧める：なし

希望があればパピーウォーカーと盲導犬ユーザーが交流できるようにする：

北海道、栃木、日本、中部、関西、九州

パピーウォーカーから提供された犬の情報を、訓練中の訓練生に伝える：

北海道、栃木、関西、九州

卒業後、一定期間、パピーウォーカーと盲導犬ユーザーの交流は遠慮してもらっていい

る：

北海道、栃木、中部、ライト、兵庫

パピーウォーカーと盲導犬ユーザーの交流は一切遠慮してもらっている：なし

5-2. 子犬の評価

(1) 子犬が育成団体の職員から評価を受ける頻度

パピーウォーキング開始時：栃木、中部、関西

パピーウォーキング終了時：栃木、中部、関西、兵庫

パピーウォーキング中に少なくとも数回：北海道、栃木

パピーウォーキング中は1~2ヶ月ごと：中部、関西

パピーウォーキング中は評価しない：日本、ライト、九州（講習会を月1回実施）

(2) 子犬が訓練対象から除外される原因となる行動

犬に対する攻撃性：日本、中部、兵庫

人間に対する攻撃性：日本、中部、ライト、兵庫

煩繁におこるおもらし：中部、兵庫

大きな音に対する恐怖：中部、兵庫

環境刺激に対する恐怖からの吠え：中部、兵庫

子犬の段階で訓練対象から除外することはない：北海道、栃木、関西

（ただし健康面で重篤な問題がある場合を除く）、九州

(3) 子犬の検診に含まれる項目

獣医師による完全な健康診断：日本、関西、九州

腰と肘の形成異常を含む骨格の検査：北海道、日本、関西、兵庫、九州

眼底の検査：日本

継続的な治療や投薬が必要になるような一般的な慢性病の検査：

北海道、関西、ライト、兵庫、九州

6. 訓練と誘導のための基準

6-1. 訓練内容

(1) 共同訓練に入るまでにクリアすべきと考える訓練課題

a. すべての団体がクリアすべきと考える課題

公共の場で、吠えたり拾い食いをせず、行儀よくするよう訓練されている

人や他の動物に対して攻撃的な態度を見せない

基本的な服従命令に応える

危険である場合に、使用者の命令に従わない

往来で安全にガイドできるよう訓練されている
いろいろな通りの交差点でガイドできるよう訓練されている
階段、歩道の縁石などのような段差のあるところで止まるよう訓練されている
障害物を確実に避けるよう訓練されている
ハンドラーの指示で、確実に左、右あるいは前進するよう訓練されている
エスカレーターに乗る訓練がなされている
バスに乗り降りし、静かに乗車しているよう訓練されている
地下鉄、電車に乗り降りし、静かに乗車しているよう、また段差のあるプラットフォームを安全にガイドするよう訓練されている
小さな町あるいは郊外で訓練されている
歩道がない道路で、安全にガイドできるよう訓練されている
リードから放れているとき、呼べば確実に戻ってくるよう訓練されている。

b. いくつかの団体がクリアすべきと考える課題

頭上の障害物を確実に避けるよう訓練されている：
北海道、栃木、日本、中部、ライト、兵庫、九州
命令に従ってある特定の物・目標の場所まで誘導するよう訓練されている：
北海道、栃木、日本、中部、ライト、九州
都会の環境で訓練されている：北海道、日本、中部、関西、ライト、九州
田園の環境で訓練されている：栃木、関西、ライト、兵庫、九州
家に慣れている：北海道、栃木、日本、ライト、九州
場合によっては、一般の人の指示に従うよう訓練されている：栃木、日本
その他：ライト、兵庫

c. どの団体もクリアすべきと考えなかった課題

落とした物を取ってきて確実に使用者に渡すよう訓練されている

(2) 1頭の犬が盲導犬になるまでの訓練時間数

北海道：120時間/7ヶ月
栃木：240時間/6ヶ月
日本：120時間/6ヶ月
中部：約7.5ヶ月
関西：10～12ヶ月
ライト：5ヶ月
兵庫：6～12ヶ月
九州：8ヶ月以上

兵庫：無回答

(3) 指導員によるアイマスクテスト

実施する：北海道、栃木、日本、関西、ライト、兵庫、九州

実施しない：中部（最終的にかわって歩き評価する）

6-2. マッチング

(1) 訓練生と犬のマッチングを調整するプロセスについて

申し込み手続きで収集した情報を訓練生と犬のマッチングを調整するために使用する：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

訓練生がクラスに入る前に指導員がその人のペアとなる犬を決定する：

日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

訓練生がクラスを始めてから指導員がその人のペアとなる犬を決定する：栃木

訓練生が何頭かの犬と体験歩行し訓練生の意見も考慮してペアとなる犬を決定する：栃木

訓練生と指導員は訓練中にマッチングの妥当性について話し合う：栃木

必要があればペアとなる犬を変えることが可能である：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

(2) 2006,2007年度中で、共同訓練修了後1年以内にペアを解消し育成団体に戻った犬の有無

0頭：北海道、中部、関西、ライト、兵庫

1頭：九州

3頭：栃木、日本

7. 盲導犬ユーザーに対するサービス

7-1. 現地訓練

(1) 共同訓練中の現地訓練の実施

すべての卒業生に対し、現地訓練を行っている：

北海道、栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

現地訓練は行っていない：ライト

(2) 共同訓練修了後のユーザーの要請に応じた現地訓練

2～3日間：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、九州

1週間～10日：栃木、中部、兵庫

7-2. 卒業後のサービス

(1) 卒業生からの要請による、リタイア犬の飼育委託について

世話する：北海道、栃木、日本（基本的に協会がリタイア犬のボランティアを探す）、中部、関西、ライト、兵庫、九州

世話しない：なし

(2) 卒業生の要請による犬の預かり

できる：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

できない：なし

7-3. 相談の受付

(1) 卒業生に対する電話での相談受付

通常勤務時間内であれば、卒業生の質問に対して指導員が即座に対応することができる：

日本、兵庫、九州

その日の内に折り返し電話をして助言・援助を行う：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、九州

2, 3日の内に折り返し電話をして助言・援助を行う：関西

卒業生の質問に対して職員が助言・援助を行うことはない：なし

(2) 獣医である職員による、盲導犬の健康等に関する相談の受付

できる：北海道、日本、ライト

(3) カウンセリングスタッフによる、盲導犬との生活の中でストレスに感じる事などの問題に関する相談の受付

できる：ライト、兵庫

できない：北海道、栃木、日本、中部、関西、九州

8. 訓練終了後の方針

8-1. 訓練終了後の盲導犬の所有について

(1) 盲導犬の所有権

盲導犬は育成団体が所有する：北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

盲導犬は卒業生が所有する：なし

育成団体は盲導犬の所有権を保持するが、卒業生は盲導犬と良い関係で一定期間を過ぎると所有権を申請することができる：なし

(2) 虐待が確認された場合の対応

虐待が確認された場合、育成団体は卒業生の家庭から盲導犬を引き取る権利を持っている：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

盲導犬の虐待状況を取り除くような働きかけを育成団体はとらない：なし

(3) 育成団体が盲導犬を引き取る条件

盲導犬の作業が安全でないと指導員が判断する場合：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

使用者の家庭環境が盲導犬にとって安全でないと判断する場合：

北海道、栃木、日本、中部、関西、兵庫、九州

一旦盲導犬を渡した以上、いかなる場合も引き取ることはない：なし

その他

使用者が盲導犬を必要としなくなったとき：九州

8-2. 犬具について

(1) 盲導犬の犬具について

卒業生は盲導犬の犬具を卒業時に受け取る：北海道、栃木、日本、中部、ライト、九州

卒業生は盲導犬の犬具を卒業時に購入する：関西（ハーネス・リードは無料）、兵庫

盲導犬の犬具の所有権を育成団体が保持している：栃木、中部

盲導犬がリタイアしたときにハーネスの返却を要求する：北海道、栃木、中部、ライト、九州

(2) 犬具の取り替え

卒業生に必要な犬具の取り扱い業者を紹介する：日本

取り替えの犬具を有料で提供する：北海道、栃木、中部、関西、ライト、兵庫、九州

取り替えの犬具を無料で提供する：なし

8-3. 健康管理のための費用

(1) 獣医師による診察にかかるための費用について

獣医師にかかるための費用を支給する：なし

リタイア犬を世話する卒業生に対し、獣医師にかかるための費用を支給する：

日本、関西（上限あり）

卒業生に対し、フィラリア・ノミ・ダニ予防薬を無料で提供する：なし

卒業生に対し、フィラリア・ノミ・ダニ予防薬を割引料金で提供する：北海道、関西、兵庫

卒業生に対し、ドッグフードを割引料金で提供する：北海道、栃木、日本、関西
学校は必要な場合、獣医の費用について貸付金や助成金を提供して卒業生を支援する：日本

経済的に困難な卒業生に対し、獣医の費用について資金を提供してくれる機関を探して卒業生を支援する：兵庫

8-4. 卒業生のためのプログラム

(1) 訓練修了時に行うこと

施設で卒業式を行う：北海道、日本、関西（現地の場合もある）、兵庫、九州（現地の場合もある）

初めての卒業生に対しては、食事会で祝う：北海道、ライト

卒業生は、盲導犬や訓練に関する資料を受け取る：日本、中部

共同訓練に関する意見を卒業生から聞くための面接が行われる：栃木、関西

(2) 育成団体に対し盲導犬の育成・共同訓練等のプログラムについて意見を提示する機会

育成団体のプログラムと方針について、卒業生が批評するための手続きがある：関西、兵庫

卒業生評議会がある：栃木、九州（九州盲導犬友の会）

卒業生および学校に興味をもつひとたちのためのメーリングリストを開設している：なし

インターネットをつかって、プログラムやニュース、製品開発の情報を流し、卒業生との間で引き続き情報交換を行っている：なし

(3) 育成団体との関わり

卒業生が育成団体の理事となることがある：

北海道、栃木、日本、中部（理事ではなく評議員）、関西、ライト、兵庫、九州（ただし現在は評議員）

卒業生が育成団体の職員となることがある：北海道（実績はない）、栃木、日本、中部、ライト

育成団体のプログラムについて、卒業生の意見を積極的に取り入れる：

北海道、栃木、日本、ライト

卒業生が住む地域で、盲導犬にかかわる経験について話す機会を提供することがある：

北海道、栃木、日本、関西、ライト、兵庫

育成団体の資金集めのために育成団体が主催するイベント等に積極的に参加する機会が提供されている：

栃木、日本、中部、ライト、九州

(4) 施設の利用などに関する啓発

法律に関する冊子の配布：北海道、栃木、日本、ライト、兵庫、九州

権利擁護のためユーザーについて一般の人々を教育するためのスタッフの配置：

北海道、日本、中部、関西

盲導犬ユーザーの市民権について一般の人々を教育するためのビデオと印刷物の保有：

北海道、日本、中部、関西、兵庫、九州（PR用ビデオの貸し出し）

使用者の会などの支援機関についての情報を訓練生に提供：

北海道、栃木、日本、中部、関西、ライト、兵庫、九州

盲導犬訓練士・歩行指導員資格認定制度について

現在、日本には盲導犬育成団体が9団体。訓練センターも増えてきたとはいえ、まだ12カ所。指導を受けた訓練施設より遠方の地域にお住まいのユーザーも多くおられます。遠い出身施設ではなく近くの訓練施設でもフォローアップを受けたり相談にのってもらえることができれば、ユーザーにとってはより便利なのではないでしょうか。しかし、訓練方法や指導内容など施設間に違いがあり、なかなかそうもいかないのが現状ではないかと思えます。

全国盲導犬施設連合会では、盲導犬を希望する視覚障害者、すでに盲導犬を使用しているユーザーが、全国どこの施設でもより良いサービスの提供を受けることができるように、これまで加盟施設職員を対象にした職員研修を実施してきました。そして、昨年度からはさらに一歩進め、盲導犬訓練士・盲導犬歩行指導員の資格認定事業を始めました。

この資格認定事業は、盲導犬育成事業に携わる訓練士・歩行指導員の資格を確立し、レベルの向上を図り、その社会的地位を高めることを目的に行っています。これまで盲導犬訓練士・歩行指導員の養成に関しては、ほとんどの施設が、日本盲人社会福祉施設協議会リハビリテーション部会盲導犬委員会で策定した基準にそって、自分の施設の職員を指導し、認定してきました。そのため、その研修内容や指導員としての資質について、施設外からのチェックが入ることはありませんでした。

この資格認定事業では、全国盲導犬施設連合会が審査機関となり、連合会に加盟している訓練施設職員で認定審査を申し込んだ者に対して、盲導犬歩行指導員等資格認定委員会が審査し、盲導犬訓練士・歩行指導員として認定するものです。

審査は、所属施設代表者の推薦を受け連合会の承認を得て「歩行指導管理員」としての資格を取得した審査員で行われます。盲導犬訓練士の場合は、学科レポートや講習会の受講、犬の評価や訓練などの実技、盲導犬歩行指導員の場合は、学科レポートや講習会の受講、歩行指導やインタビューの実技の他、審査会正副委員長の面接といった審査項目があります。

審査を経て盲導犬訓練士・歩行指導員としての認定を受けた職員に対しては、顔写真付きの資格証が渡されますが、永続的な資格ではなく3年ごとに認定更新の書類審査を受けなければなりません。全国のどこの施設でも一定レベルのサービス提供がなされることを目指し運用される資格認定制度です。とはいえ、各施設が他の施設と横並びになることでこれまで培ってきた施設独自の良い特色がなくなったり、サービス低下を招いては、目的が損なわれてしまいます。各施設の独自性も活かしつつ、それぞれが足りないところに気づき、さらによいサービス提供につながるように取り組んでいきます。

盲導犬ユーザーからのお便り

出会いと別れについて

山形県 今野善一（こんの ぜんいち）

私達の人生は出会いと別れの連続で成り立っていると思います。

私と盲導犬との出会いは担任の峯田先生が盲導犬エフと一緒に生活していたことから始まりました。当時、私は盲学校2年生で「本当に盲導犬が目の見えない人を安全に誘導できるのだろうか」と思っていました。そんな矢先のある晴れた日、野外学習と称して近くの斎藤茂吉記念館に出かけた時のことです。峯田先生に「今野君、盲導犬とちょっと一緒に歩いてみないか」と言われました。ハーネスの持ち方などを教えて頂いて、初めて盲導犬と一緒に歩く経験をしました。私はその時のスピード感、頬にあたる心地よい風の感覚を今でも覚えています。私も卒業したら盲導犬と一緒に人生を歩んでいきたいと強く思いました。峯田先生のあの一言が私のその後の人生を変えてくれたのです。

盲学校に入る前は米作りの専業農家でした。35歳の頃に今まで全く縁のなかった「網膜色素変性症」という目の病気と出会いました。米沢市内の眼科では「遅かれ早かれ、いずれ失明する可能性の高い病気です」と言われ、ショックでした。でも諦めきれず、納得もいかないので親戚に相談し、山形大学や東京大学付属病院でも診察してもらいました。しかし結果はどこも同じでした。私の場合発病してからの病気の進行が速く、たとえば稲の葉の色が徐々にわからなくなり、機械を運転することも困難になっていったのです。米作りをしてきた仲間たちが手分けして手伝ってくれましたが、いよいよ全盲に近くなり離農すべきかどうか迷い、悶々とした日々を送りました。その頃私は父、母、妻、子ども二人の六人家族の大黒柱として働いており、盲学校に入れば当然収入が減る訳です。小学校以来の友人が「田んぼのことは心配するな。三年間俺が代わりに米作りをするから」と言ってくれました。その有難い言葉に背中を押されて、私は盲学校に入学する決心をしました。盲導犬エフと出会った春の終わりに、私の病気のことを一番心配していた母が突然亡くなってしまい、私の勉強の手助けをして教科書を読んだり、送迎をしてくれていた父は元気を無くし口数も少なくなりました。国家試験の時期はちょうど長男の大学、長女の高校受験と重なりましたの

で、3つの机を並べて「勉強始めるぞ」などと声をかけ合いながら必死で勉強しました。念願が叶い国家試験に合格し46歳の時、栃木盲導犬センターのルーシーと出会いました。ルーシーは色白美人でやさしい顔と穏やかな性格で愛嬌もあり、みんなに可愛がられました。一人っきりの時間がふえてしまった父も、とても慰められたようです。その後父も亡くなりましたが、私が盲導犬と一緒に通勤し、温かい家族と仲良く暮らしていることを天国の母に報告してくれたと思っています。

ルーシーとは約9年間一緒に暮らしました。私は日中、自宅で鍼灸マッサージ院を営みながら夕方からは温泉旅館でマッサージルームを開き、一時間半ほどかけて電車と歩きで通勤をしております。旅館はとても大きく複雑な迷路のような旅館ですが、当初フロント側も「盲導犬がマッサージさんを連れて行きます」とお客様に断って、安全に各部屋に出向くことができました。心配していたクレームも全然なく、お客様の方から部屋の中に入れてもいいと言って頂き、今ではマッサージしている私のそばで待っている状態です。パンフレットやホームページにも載せて頂いているので盲導犬見たさでマッサージの指名がかかることもあります。ルーシーはお客様にも慣れて私がマッサージをしている間は、横になって眠るようになりました。その日もルーシーは男性のようないびきをかき夢の中で全速力で走っておりました。それを見た盲導犬見たさでマッサージを頼んでくれた方が「ルーシーの夢」という題である新聞に投稿されたのです。リラックスした姿、その後のいびき、次第に足をバタバタさせて夢見る姿にほほ笑ましく、これからも頑張ってもらいたいという内容でした。偶然とは不思議なもので、たまたま東北に出張に来ていた横浜のパピーウォーカーの西村さんがその記事を読み「これはルーシーでは？ いや、うちのルーシーに違いない」ということでその新聞のコピーを送ってきてくれたのです。そこから西村さんと家族ぐるみのおつきあいが始まり、ルーシーに会いに家族で何度か泊まりに来てくれました。

ルーシーと私は小、中、高校、短大、施設から講演依頼を受けるようになり各地を訪れ、そこで多くの人と出会い感動も頂きました。ルーシーとの一番の思い出は長女の結婚式でルーシーの手引きでバージンロードを歩いたことです。また、NHKのど自慢には盲導犬の啓発活動につながるからといって山形の武田さんと一緒にいつも応募していました。ルーシーは11歳を迎え、体力的にも歩く姿にも、疲れが見えるようになっていました。いよいよ来年引退するということでルーシーのおかげでようやく本選に選ばれ出場することになりました。曲目は「ありがとう感謝」。この歌は今まで私を支えてくれたルーシーと家族、周りの人たちに対する精一杯のお礼の歌です。

ルーシーの引退の時期が翌年2月に決まりました。そこで私は毎年講演に行っている高校でルーシーの引退の話をしました。ルーシーの将来を考えると悲しく胸の痛い毎日でした。その後、教頭の岩井先生とのお話の中で「実は私も今年度一杯で教職を引退します。これも何かのご縁かと思えます。是非今野さんの目となって尽くし支えてきたルーシーの世話を私にさせてもらえないだろうか」という話がありました。岩

井先生の熱意が私にも伝わってきて、この人なら間違いないと判断しました。突然ではルーシーも大変だろうと岩井先生のところに半日くらい遊びに行って、それを2,3回繰り返して、4回目くらいからルーシーだけ預かってもらうようにしました。ルーシーの遊び道具を少しずつ運び、最後にベッドを運んでいきました。たぶんルーシーは、「えっ？ 何で？」という感じで別れを予感していたと思います。その頃から私は「近くにいるし又会えるのだから、絶対に泣かないぞ」と覚悟を決めていました。別れの日はいよいよの吹雪でしたが、岩井先生夫妻が車で迎えに来て下さいました。ルーシーは何度も振り向きながら、最後にチラッと玄関先の私達の方を見て名残惜しそうに車に乗っていきました。その様子を見て最初、娘が泣き出してしまい、続いて家内が、ついに私も涙がぼろぼろあふれ出て止まりません。一生分の涙を流しました。今まで生きてきてこんなに悲しくつらい別れはありません。午前中ルーシーを見送りその日の午後には次の盲導犬の訓練のために栃木盲導犬センターに出発しました。その判断は正解だったと思います。そうでないと毎日ルーシーを思い出して泣くことになったと思います。

2頭目のエブリィはハンサムで繊細な神経の持ち主です。甘えん坊で心身をすり寄せては2年間寝食を共にしてきました。最近では、ようやくお互いに考えていることがわかるようになりました。今もルーシーがいた頃と同じように電車と歩きで通勤し、エブリィに「今日はどんな人と会えるかな」と話しかけています。

私は「前向き肯定的に生きる」というのを人生訓としています。だからいろんな所から講演の依頼を受けると必ず行くようにしています。こうして精力的に活動ができるのも盲導犬のおかげです。そして何より家族の力、周りの人の力です。

今年のNHK大河ドラマ「天地人」では私の住んでいる山形県米沢市も紹介されています。山形県の盲導犬もルーシーが来た頃は5頭でしたが今は9頭にふえました。6月20日（土）から22日（月）にかけて私達盲導犬ユーザーが結集し、米沢市の後援を頂き「愛のまち米沢・盲導犬達との集い」を開催する予定です。これからも働く犬の頭数がふえ、心身の不自由な人たちの心の支えとなってくれること、もっと世の中が明るく住みやすくなればよいなと願っています。

盲導犬情報ボックス

2008年に出版された盲導犬に関する文献

昨年1年間に出版された盲導犬に関する書籍を調べてみました。

大学や学会などで発表された論文についてはなかなか把握できていませんので、他の文献をご存じの方はぜひ盲導犬情報室までお知らせください。

< 書籍 >

『アンソニー、きみがいるから — 盲導犬がはこんでくれたもの』

櫻井ようこ（ポプラ社） 2008.10 点字データ・カセット・デイジー

『盲導犬キースのヒト観察記 - 支え合うヒト達のフクシを見つめて』
星野有史（相川書房） 2008.9

『ラブの贈りもの - 盲導犬誕生物語（改訂版）』
登坂恵里香（汐文社） 2008.8

『盲導犬リチャードからのおくりもの - はたらきものの犬たち どうぶつ感動ものがたり』

国松俊英（ポプラ社） 2008.3 点字データ・デイジー

『犬たちがくれた「ありがとう」 - 盲導犬ベルナの仲間たち』

郡司ななえ（角川文庫） 2008.2 点字データ・カセット・デイジー
〈オーディオブックCD〉

『Q & A 盲導犬』（CD5枚）

松井進（ことのは出版） 2008.4

『アイメイトと生きる - 盲導犬を育てて五十年』

塩屋賢一（パンローリング） 2008.6

〈DVD〉

『プロフェッショナル 仕事の流儀 イヌは人生のパートナー 盲導犬訓練士 多和田悟の仕事』

（NHKエンタープライズ） 2008.8

〈研究論文〉

日本補助犬科学研究第2巻1号（日本身体障害者補助犬学会） 2008.5

講義・講演 「世界から見た日本の盲導犬育成事業」（福井良太）

原著論文「盲導犬の早期適性判断への健康診断の利用」（水越美奈、中村透）

現場報告 「東北地域における視覚障害者リハビリテーションと盲導犬希望者との関わり」（菅原美保）

全国盲導犬施設連合会からのお知らせ

（1）NPO法人設立報告会の報告

全国盲導犬施設連合会は、昨年6月6日に特定非営利活動法人(NPO法人)として認可を受けました。そして、その報告会が2008年9月2日、アルカディア市ヶ谷において行われました。

当日は、事務局からNPO法人設立経過報告がなされた後、「身体障害者補助犬を推進する議員の会」事務局長でもある阿部知子衆議院議員をはじめ来賓の方々からご祝辞を頂戴しました。また、連合会加盟施設8団体から、それぞれの施設の紹介もありました。

全国盲導犬施設連合会は、視覚障害者の自立と社会参加に寄与することを目的に、全国の盲導犬施設が連携して1995年3月に発足しました。その後、アイメイト協会の退会、兵庫盲導犬協会の加入があり、現在8団体が加盟しています。また、これまで盲導犬普及のための啓発キャンペーンの実施、広報誌の発行、受け入れ促進のた

めのパンフレットやステッカーの配布、盲導犬訓練士等を対象にした研修会の開催、盲導犬事業推進のための資金助成、盲導犬使用者や事業者・市民からの相談・苦情の受付などの事業に取り組んできました。

NPO法人となって、その事業内容に大きな変化があるわけではありません。しかし、法人化によって社会的信用も増し、これまで以上にこれらの事業を積極的に推進していけるものと考えています。

NPO法人として再スタートをきった全国盲導犬施設連合会をこれからもよろしくお願いいたします。

(2) 相談窓口連絡先を記載したリーフレット「ぼくも一緒 みんなも一緒」を作りました

「身体障害者補助犬法」の改正により、2008年4月1日から、都道府県・政令指定都市・中核市において、相談窓口が設置されることになっています。昨年5月に調査したところ、まだ未設置の自治体もありましたが、その部署名・連絡先について、この『盲導犬情報』創刊号でもお伝えしてきました。

今回、この設置窓口を一覧にして、携帯できるよう手帳サイズのリーフレットを作りました。

相談窓口の一覧とともに、身体障害者補助犬法や盲導犬について、また盲導犬を連れたお客様が施設を利用しようとする際にどのような対応が望ましいかについて簡単な説明を載せています。お店で利用を断られた時、あるいはお店の人が対応についてご存じなかった時など、お店の人に手渡し、理解を求めることを目的に作成したものです。

なお、このリーフレットとは別に、前回の『盲導犬情報』発送時に同封しました、相談窓口の連絡先をまとめた点字版、テープ版の在庫があります。

どちらも、必要な方にお送りいたします。希望される方は全国盲導犬施設連合会事務局までご連絡ください。なお、点字版・テープ版は無料でお送りいたしますが、リーフレットの場合はお送りする際の送料をご負担くださいますようお願い申し上げます。

(3) 2009年度ポスターと『デュエット』について

全国盲導犬施設連合会では、全国盲導犬普及キャンペーンの一環として、毎年ポスターと『デュエット』という機関誌を作成しています。

2009年度のポスターは、全体が明るい芥子色。ポスターの上の方に「ぼくたち盲導犬をどうぞ応援してね」という大きな文字と、その下に「ぼくたちは普通のペットではありません。目の見えない人にとって、人生を共に歩んでゆくパートナーです。ぼくたちを必要としている人が、まだまだたくさんいます」と書いてあります。ポス

ターの下半分は、ハーネスをつけた白っぽいラブラドルの上半身の写真が大きく載っています。

機関誌『デュエット』の表紙は、ポスターと同じ写真。2009年度の内容は「盲導犬のホントのトコロ」。ラブラドルの「デュエット」くんが狂言回し役となって、

「盲導犬に向いている犬」

「レトリバーが多い理由」

「盲導犬のお仕事」

「信号もわかるの？」

「盲導犬にならなかった犬は」

といった、一般の方からよくある質問に対して「デュエット」くんが説明していく展開になっています。質問項目はこのほか盲導犬の訓練に関することや誕生から訓練・引退後のことなどにもふれています。また、訓練士へのインタビューや盲導犬ユーザーからのメッセージ、犬の飼育に関するボランティアや街で出会ったときの注意なども載っています。

これらの機関誌・ポスターは、全国盲導犬施設連合会の募金箱を置いてくださっているスーパーやコンビニエンスストアなどで手にすることができます。機関誌は無料で配布していますが、置いてあるお店が近くにないという場合は、連合会事務局または連合会加盟施設に問い合わせしてみてください。なお、郵送を希望される場合には、郵送料を申し受けることとなりますが、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

編集後記

今回、8つの盲導犬育成団体にご協力いただいてアンケートをまとめてみましたが、いかがでしたでしょうか。アメリカの盲導犬ユーザーの会が実施されたアンケートの項目をそのまま持ってきてしまったので、日本にはなじまない質問項目もあったように思います。質問項目については再度検討しつつ、盲導犬希望者がどこの施設でサービスを受けるのか、その選択に役立つようなものをまとめてみたいと思います。皆さまのご意見や質問に対するご希望など、ぜひお聞かせください。(久保)